

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚園および1～5年) = 幼稚園および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

2021年度学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2021年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

本学への要望・期待

◆K-12 教育活動の自己評価

<Primary Division>

- ・コロナ禍にあっても、全人教育の理念は損なうことなく、カリキュラムや学習内容の充実を図った結果、英語力の向上という成果が得られたことを評価する。
- ・学級閉鎖時にもオンライン授業で受講できることにより、学びを止めることなく過ごせたり、父母会のオンライン実施も非常に助かった。反面、先生方と保護者や、保護者同士の情報交換の場や繋がりが少なくなってしまう印象がある。
- ・学習については全く心配ない。「外で遊ぶ」「子ども同士で触れ合う」などリアルの体験がもっと増えることを期待する。

<Secondary Program Division>

- ・コロナ禍のために達成できなかった改善点も含め、前年度からの課題、次年度への改善方法など、適切に評価していると思う。
- ・全人教育の理念に基づいた教育の成果について定性的な評価があると良い。
- ・外国人教職員に全人教育や玉川っ子らしさを浸透させることを課題視していた点は納得感があり賛同できる。

<IB Programs Division>

- ・制約が多い環境下でも、工夫を凝らした学習を進めている。
- ・対面の機会が少ない中でも、全人教育の理念と玉川っ子像を伝え続けてくれることを、保護者として非常に嬉しく頼もしく思う。

<Division 共通>

- ・Division ごとに特徴的な教育課程だが、今後、各 Division に属する子どもたちや保護者、教職員がさらに一体感を持てるように情報共有できる場があると良いと思う。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】(回答：19名)

適切である：47.4% 概ね適切である：52.6% やや不適切である：0% 不適切である：0%

<JP・EP クラス>

- ・同じ校舎、隣の教室で学んでいる環境を生かし、JP・EP 双方の良い所 (指導方法や使用教材など) を共有することで、さらにより良い人材育成に繋がっていくのではないかと。

<IB-MYP>

- ・他の Division に在籍しているが、IB クラスの学習活動は概ね適切に行われていると思う。自己評価が「3 (やや達成)」の項目については、更なる充実を期待する。

<IB-DP>

- ・先生方が密に連携を取り、現状に甘んじることなく、子どもたちにより良い学習環境の整備を重ねていることを再認識した。